

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6 年 2 月 13 日

公表:令和 6 年 2 月 20 日

事業所名 放課後等デイサービス 陽

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			個別療育がより充実するよう機器の台数などさらに充実を図りたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切である。	人員配置基準を上回る配置数を目指している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレ、部屋等は段差はない。階段は滑り止めを行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		サービス開始前に事前の打ち合わせを十分におこなっている。	定期的に職員会議を行っている。また普段から職員間の意思伝達は密接に図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートについては、職員全員で検討会を行っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		アンケート結果はホームページで公開している。	事業所の会報は無いが、自己評価はホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価・第三者評価は実施していない。今後の検討課題にしていきたい。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員会議は、定例化して実施している。	事業所負担で研修会への参加を進め、資質の向上に努めている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメント記録はデータベース化している。	出来るだけ長期的観点から個別療育の方向性を検討するよう心掛けている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		活動記録は日々記載し状況の把握をおこなっている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムは職員会議で内容の検討をおこなっている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		定期的に活動内容は見直しをおこなっている。	個別療育が充実するよう、活動プログラムは本人のやる気等を考慮して随時変更等をおこなっている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個別のニーズに配慮した療育をおこなっている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動が充実するよう個人のニーズに出来るだけ配慮している。	中高生向けの療育内容の充実にも配慮していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		児童の受け入れ前に、実施内容の確認をおこなっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育記録で確認し、重要な点は管理者がまとめ連絡している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育記録は、個人別に見直し出来るよう作成している。	個人別の療育記録は、定期的に保護者や担当者会議で公開し、個別支援計画の充実を図っている。保護者からの評価も良い。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング表には達成度・評価を入れ、見直しの必要性を判断している。	モニタリングの様式を相談支援事業所とも合わせることで、サービス計画を立て易いようにしていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		自立、創作、交流、余暇等を配慮して支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		自発管が療育記録を把握したうえで参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校からの連絡は個別ファイルに保存し、情報の把握に努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	医療的ケアの必要な児童の受け入れていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	保護者から提供される資料等で情報の把握を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしている	○		相談支援専門員の方と連携することで情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		専門機関との連携については、より多くの職員がおこなえるよう努力していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		施設内での療育が中心であるため機会は設けられていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		自立支援会議への参加経験がなく、今後は積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や電話等で連絡を密にとれる体制を整えている。	緊急性の対応が必要な場合には、時間を問わず情報交換に努めている。早急な対応に心がけている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			お子様の療育状況をお伝えし、保護者の方がお子様に対して客観的認識が生まれるような支援を目指している。また、保護者の方が孤立されないよう配慮している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の重要事項説明書の説明で行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談には誠実に対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の連携については、ニーズがあるのかなかなか判断できておらず、今後の検討課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		責任者を中心に誠意をもって対応している。	療育記録の公開を前提に、日々の療育内容を十分に把握し、客観的に問題点を指摘できるように努めたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月間スケジュールは必ず事前に保護者に示し、参加の確認を図っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		情報管理を徹底できるよう備品等を準備している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚支援等工夫しながら意思疎通を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在、地域との交流は実施していない。今後の課題として検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	△			各対応マニュアルは作成し職員間では共有し、周知しているが保護者の周知は十分にできていおらず、今後の課題である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年1回実施している。	能登半島震災を受け、子供たちや職員が参加した避難訓練を実施した。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業所内研修を実施している。	日頃から、職員間のコミュニケーションを密にとりあっている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体的拘束の必要な状況は見られないが、児童との関係性を深め、心の安定を図るなど工夫しながら、身体的拘束が起こる機会を無くす努力をおこなっている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメントシートに記載していただき対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書に記載し、情報の共有を行っている。	